

2020年5月6日

関西学院大学体育会水上競技部  
部員の皆さん

関西学院大学体育会水上競技部  
弦泳会会長  
北村公一

コロナ禍が長期化する中、政府が緊急事態宣言を布告、日常生活そのものが経験したことのないような状況下にあります。医療従事者や休校に伴う教育の問題等、様々な奮闘や努力、そして苦悩が伝えられています。5月7日からは緊急事態宣言が延長され、特定警戒都道府県では一層の自粛が求められます。

スポーツの世界においては、オリンピック・パラリンピックが1年延期、学生各種競技会、インターハイ、全中大会の中止が決まりつつあります。スポーツ推薦での進学を考えている高校生への影響も懸念されています。

水上競技部の皆さんにおかれては、学院キャンパス閉鎖措置が5月31日（日）まで継続されることになり自宅でのオンライン授業が始まる中、自身とご家族の健康を守ることに加え、この事態に伴って発生したさまざまな生活課題に向き合っていることと思います。

皆さんは今、感染の恐怖、今シーズンの試合日程やコンディション、中でも4回生の皆さんは最終年度の部と自らの戦績そして就活、1回生の皆さんは部活動そのものに対する不安といろんなものを抱え込んでいると懸念しています。私は、コロナ禍によりさまざまな制約を受ける中でも、水上競技部が「絆」でつながっていると実感することが極めて重要だと感じています。

このような状況下、既に皆さんがオンラインでつながりコミュニケーションを取り続け、競泳パート・水球パートの「動き」を止めないよう、筋トレなど新しいやり方を懸命に構築しようとしていると聞いています。皆さん全員が、水上競技部の一員としてそれぞれの役割を全力で果たしておられることに心から敬意を表します。

更に、この時期にこそ「Mastery for Service」「NOBLE STUBBORNNESS」「Zeal in Holy Stroke」の意味を改めて噛み締め実践できる日に備えましょう。幹部の皆さんには1回生にその意味をじっくり伝えていただきたいと思います。是非お願いします。

青春の最中にコロナ禍に直面した皆さんは、コロナによって苦しむ時代を、そして終息後の新たな世界を勇気をもって切り拓いていく挑戦者となります。必ずこれからの皆さんの行動に大きな糧になると確信します。

一方、昨年度の4回生の皆さんは本年4月から新たに社会人としてスタートを切られました。多くの方が入社式だけではなく、入社時研修や配属部署での仕事も通常の形でスタートを切ることができないという、緊急事態下での門出の年となっています。そんな状況

の中でも、皆さんの先輩は関学体育会水上競技部 OB・OG としての気概をもち、新しい未来への高い志を胸に、良き社会人としての力強い第一歩を踏み出されています。

長引くコロナ禍ですが、必ず終息します。今日の1日は、終息に向かって近づく1日です。しっかりと前を向きながら、皆さんは、自身とご家族の健康を第一に考え、互いに支え合いながら、コロナ後の未来に向かって、今できることに全力を傾けてもらいたいと思います。

団結し懸命に前進する水上競技部2020年度の幹部の皆さんはじめ部員一人ひとりを心から誇らしく感じます。

一日も早く皆さんにお会いできる日を心から待ち望んでおります。

以上